

## 平成 28 年度 大山ファーム事業報告書

### 1. 利用者状況

月	在籍者 (名)		1日の平均 出勤者数(名)		稼働率 (%)		契約者		終了者		契約終了理由
	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	
4	0	29	0	22.5	0	102	0	1	0	0	
5	0	29	0	21.8	0	99	0	0	0	0	
6	0	29	0	22.9	0	104	0	0	0	0	
7	0	29	0	23.6	0	107	0	0	0	0	
8	0	29	0	22.0	0	100	0	0	0	1	支援機関変更
9	0	28	0	23.6	0	107	0	0	0	0	
10	0	28	0	24.1	0	109	0	0	0	0	
11	0	28	0	23.5	0	106	0	0	0	0	
12	0	28	0	23.7	0	108	0	0	0	0	
1	0	28	0	21.6	0	103	0	0	0	0	
2	0	28	0	23.3	0	106	0	0	0	0	
3	1	28	0.8	22.0	16	100	1	0	0	0	
平均	0	28.4				104					

(男性：19人平均年齢 42.5 歳／女性：9人平均年齢 48.5 歳)

#### (1) 利用定員

○就労移行支援（6名）・就労継続B型支援（22名）

#### (2) 新規利用者内訳

○地域からの利用…2名（就労移行支援1名・就労継続支援B型1名）

相談支援事業所や特別支援学校等と連携を図りながら、継続的に就労移行支援希望者を募った。就労アセスメント利用者（5名）を除くと3月になり、1名が利用開始となった。

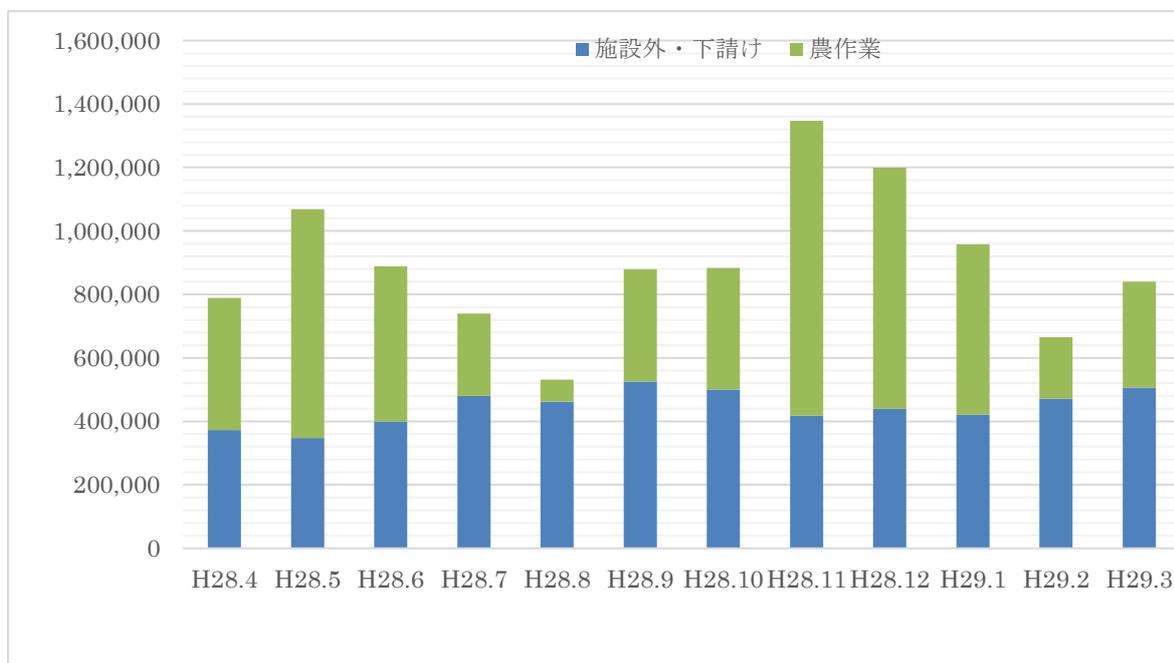
就労継続支援B型は毎年、特別支援学校卒業生を数名迎え入れていることや実習や保護者見学会を実施していることから、卒業後の進路先の一つとして認識してもらえるようになった。

#### (3) 退所者内訳

○支援機関変更…1名（就労継続支援B型1名）

利用者の高齢化・重度化（重複障害）・独居のケースが増えてきている。ケア会議を開き関係者が通所サービスの必要性を伝えても本人が必要性を感じる事ができず継続的な利用に結びつかなかった。退所の際には各関係機関と連携を図った。（相談支援事業所、成年後見人等）

## 2. 支援の状況



### (1) 作業収入割合

●平成 28 年度総収入 10,791,965 円 (平成 27 年度総収入 8,223,348 円)

### (2) 支払工賃

●工賃総額 5,337,458 円

(平成 27 年度工賃総額) 4,069,110 円

●月一人あたりの平均工賃

就労継続支援B型 15,662 円

(平成 27 年度平均工賃) 就労継続支援B型 14,743 円

### (3) 施設外作業

実習先事業所	作業内容	備 考
(福)おおぞら療育センター	衣類整理業務	
(福)四季の郷	清掃・衣類整理業務	
(医)西山病院	庭園管理業務	
(株)TG	自動車部品の組み付け	
宮木農園	野菜の収穫・除草等	

就職に向けての第一ステップとして施設外作業を位置づけ活動を行った。就職に必要なとされる挨拶やマナー（報告、連絡、相談）を企業や他事業所で経験、実践することで利用者個々の作業に対する意識の変化が見られた。

### (4) 下請け作業

委託先	作業内容	備 考
(株)TG	自動車部品の組み付け	

(有)グリーンライフ	葉ネギの選別・梱包	
(有)船越造園	除草作業	不定期
(株)ダイセン	物品仕分け・梱包	
大五運送株式会社	梱包・箱組	
やまとラクノープ	玉ねぎの選別・梱包	
めせあファーム	玉ねぎの収穫・選別	
法林寺	除草・清掃作業	月に1回
優先調達	除草作業	和地幼稚園・西部衛生工場等

利用者の重度化・高齢化に伴い新たな委託先・作業を開拓したり、作業手順（費用対効果等）を見直したりして委託作業の整理を行った。

障害者優先調達法により、優先的に公的機関の除草業務等を請け負うことができるようになった。農閑期に効率的・計画的に作業を進めることができた。

#### (5) 農作業

販売・委託販売	販売内容・取引先	備考
小売販売	地域交流まつり等各行事	ミニトマト狩り
	無人販売所	ふぁ～まるしえ
委託販売	JAとびあファーマーズマーケット	三方原店・浜北店
	ヴィラ東山苑	高齢者施設

栽培作物（ミニトマト・干し芋・ふき等）

近隣の農家より作付け時期を1ヵ月程度、早めたことで品数が薄い9月上旬から出荷することができた。そのため、「大山ファーム」のミニトマトを認知してもらえるきっかけとなった。また、販売が落ち込む12月にJAとびあファーマーズマーケット三方原店の店頭販売も実施した。例年、価格が崩れる時期も出荷量を調整したり、販路先を変更したりして価格を維持して継続的に販売することができた。

無人販売所の「ふぁ～まるしえ」（大山ファームのミニトマトを中心に農作業等で関係のある農家の作物も販売）は毎日30～50点ほどの売り上げがあった。隣接する形で地元の大山町の方々が作った野菜の販売所もできたため、日常的に地域住民と交流もすることができた。また、除草作業を通して関係のあった和地幼稚園の園児をミニトマト狩りに招待するなど自主製品のミニトマトを通して「頑張ってるね」「いつも美味しいミニトマトをありがとう」などの温かい言葉やたくさんの笑顔を見ることができた。

### 3. 健康支援

希望者を募って4月に健康診断、12月に歯科検診を大山ファームで実施した。

感染症については外部研修（ウイルス感染予防研修）を受講し、その内容を支援員会議でフィードバックする形で共通理解、情報の共有を図った。12月から通所時の検温や換気、湿度の調整を行った。また、利用者にもうがいや手洗い等の必要性を伝えると共に継続的

に意識できるようにポスターを掲示した。インフルエンザに罹患した利用者もいたが、早期の対応により集団感染することはなかった。

#### 4. 防災・危機管理・リスクマネジメント

年間、3回の防災訓練を行った。(6月「法人防災訓練」9月「総合防災訓練」11月「福祉施設防災訓練」)また、危機管理や感染症、風水害、交通事故(送迎)各種マニュアルの整備を行った。

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

#### 5. 行事

誕生者がいる月には午後の休憩時間に誕生会を実施した。また、正月休み明けには買い出しから調理までを利用者と一緒に行う新年会を行った。平成29年2月に第6回目となる地域交流まつりを『大山ファーム地域交流委員会』(地元住民及び地元企業、昴会職員から委嘱)と連携を取り、東大山桜まつりと同時期に開催した。イベントとして大山ファームのミニトマト狩りやウォークラリー等を行った。

#### 6. 会議・研修

調整会議(委託作業等に関わる調整事項…1回/週)支援員会議(利用者支援に関わる内容…1回/月)モニタリング会議(個別支援計画に関わる内容…2回/年)を行った。

内部研修は「利用者の権利擁護・虐待研修」「夜間防災訓練の視察」「個別支援計画作成」を行った。

外部研修については行政や静岡県知的障害者福祉協会の研修へ積極的に参加して関係機関、事業所のつながりを意識した。利用者の状態把握や支援プログラムの質の向上のため、ウイルス感染予防・個別支援計画等の研修の機会も持った。